

二〇二六年度 三田学園高等学校入学試験問題

国語

〈注意〉各問題の解答はすべて解答用紙に書き入れなさい。

※出題の都合上、漢字にふりがなをふる、漢字をひらがなにするなど、本文の一部に改変を行っています。

※特に指示のない限り、字数制限のある問題では句読点や記号も一字として数えます。

受験番号	
------	--

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さて、もう一度「あいさつ」ということばに戻りましょう。子どもの成長を一つの軸として、「あいさつ」ということばの意味と価値を考えてみてください。もはや欠かすことのできないものという感覚も理解できるかと思えます。なぜなら、あいさつは「すべての関わりのはじまり」だからです。

子どもは多様な関係の中で学んでいきます。だから、あいさつは「特定の誰か」<sup>だれ</sup>だけではなく、A「まだ知らない誰か」にしてこそ可能性が広がるのです。もちろん、安全面の理由から、通りがかりの知らない人にまで声をかけるのはおぼろしい時代です。大人が子どもを守りながらアカンキョウをつくる必要はありません。

誰とでもやりとりができる子は、人から学ぶことの価値を知らず知らずのうちに学んでいます。こういう子は顔をつきあわせてうなずいたり、うれしそうに相槌をうったりと共感的に相手に近寄ろうとする姿勢が感じられるのです。相手が薦めてきたことに、おもしろがって挑戦してみること世界を広げていきます。

もちろん内向的な性格だったり、話し下手だったりして、人と接することを不得意としている子もいます。いつもお母さんの後ろに隠れているような子も想像してみてください。子どもらしいといえば、子どもらしい光景です。

人とのやりとりを躊躇<sup>注一 ちゅうちゅう</sup>してしまう子に対して、「うちの子は恥ずかしがりやだから」という昔からの決まり文句があります。

B、人との関わりが苦手なことは事実としてあることでしよう。しかし、それを理由に他者との接触を親がさまたげるようなことがあれば、それは子どもの成長をイホウキしているのと同じです。

中・高生世代であれば、自分からウソツセンしてあいさつをするのに恥ずかしさを感じることもあると思います。胸の内では相手の存在を気にしながらも、思わず素通りをしてしまうこともあるかもしれません。友達の手前、余計に行動しづらいこともありますよね。

でも、まだ見ぬ一人ひとりが自分の将来に関わっているかもしれないかと思うと、人と関わらないことは損失にも思えてくるはず。上手にあいさつができる子は、チャンスをつかめる子でもあることを忘れてはいけません。

① 小さな子どもには「あいさつ」を「成長へのきっかけ」という観点から教えるべきです。人と関わるのが、かけがえのない出来事にも感じられてくるのではないでしょう。

② あいさつの価値の大きさは、大人であっても変わりません。たった一回の「こんにちは」で生まれた接点<sup>注二 せんりょ</sup>が新しい仕事につながったり、運命を左右する出会いであったりすることもあります。場合によっては、人生をもに作る伴侶を見つけてきつかけにもなるはず。

C、「こんにちは」というあいさつの価値は、その人自身がつくるとも言えるのです。

③ 出会いという観点から見ると、あいさつにはまだ可能性があります。

世間は狭いとよく言われますが、すべての人や物とのつながりは、平均で六人の人を介してなされるという説があります。「六次の隔たり (Six Degrees of Separation)」と呼ばれるものです。皆さんの中にも聞いたことがある方がいるかもしれません。

( ) ということになります。SNSが発達した昨今では、平均六人より少ない人数でも出会えることが エ シテキ キ されているようです。

信頼する友人を通じて、誰かを紹介してもらおうような経験がある人もいるでしょう。たった一人との出会いが、次の出会いにつながっている。新たな交流によって、自分の人生が大きく好転していくことが事実としてあります。

仮に「あいさつ」をきっかけに人生が変わった経験をした大人がいれば、その人にとっての「あいさつ」は「運命を変えるかけがえのないもの」となります。決して、ただの儀礼的なやりとりとは考えないはずで

本章の冒頭で「あいさつ不要論」の例を紹介しました。あいさつを「話したくもない人に向けた形ばかりの苦痛なもの」と考えている人とは、まったく違う捉えになるかと思えます。同じことばであっても、学んできた背景によって、見える景色は異なります。

価値観は人それぞれです。どちらがいいという判断を簡単に下すことはできません。ただ一つ言えるのは、ことばの意味や価値を増やしていくことは、ことばを通して物事を「エ 的に見ることにつながると思うのです。こうした見方ができる人のことを「大人」と呼ぶのだと考えています。

あいさつをする習慣が築かれている子は、相手意識が育まれている子ともいえます。相手意識は第2章で確認した「聞くこと」の土台でもありましたね。人とつながって世界を広げたいという想いは、声や表情などの仕草にはつきりと表れます。あなたにとってあいさつが印象に残る子がいたとしたら、その子はもう自分の力で未来を切り オ 拓 キ いている証拠です。

進んで頭を下げたり、声をかけたりするのは、人への関心がなければおぼろしいこともあります。だからこそ、人と通じ合うことに喜びを感じた経験があるかどうかは、子どもの成長に大切だといえるでしょう。

(岸圭介『学力は「ごめんなさい」にあらわれる』より)

注1 躊躇……ためらうこと。

2 伴侶……一緒に連れ立つ者。連れ。

問一 ~~~~~部ア〜オについて、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに改めなさい。

問一

A 〓 C に入る言葉として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、記号は一度しか使えません。

- ア しかし
- イ たしかに
- ウ 例えば
- エ つまり
- オ むしろ
- カ さて

問二

部①「小さな子どもには『あいさつ』を『成長へのきっかけ』という観点から教えるべきです」とありますが、「あいさつ」が「成長」につながるのなぜですか。傍線部より前のことばを用いて答えなさい。

問三

部②「あいさつの価値の大きさ」とありますが、あいさつの価値は小さいと考えている人にとってあいさつとはどのようなものと感じられますか。本文中から八字以内で抜き出して答えなさい。

問四

部③「出会いという観点から見ると、あいさつにはまだ可能性がありますが、あいさつの可能性とはどのようなものですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 新たな交流が生まれることによって、自分の人生が好転する可能性がある。
- イ あいさつによって物事を複合的に見ることができ、大人になれる可能性がある。
- ウ 人への関心が増えることばが上達し、友人関係が広がる可能性がある。
- エ ことばの使い方を気にするようになり、相手の心情が分かる可能性がある。

問五

( ) に入る表現として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 今は自覚がなくても、大事な六人とはどこかでつながっている
- イ 今は身近に感じられなくても、出会いたい人は案外近くにいる
- ウ 今は身近にいない六人との出会いから、関係が広がっていく
- エ 今は遠くにいても、やがて大事な人との出会いはおとずれ

問七 「 Ⅰ 」に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 社会 イ 効果 ウ 簡易 エ 平面 オ 多面

二、陽菜は母とともに柴田のじいちゃんの家を暮らしていた。陽菜の母が病死したため、まだ幼い陽菜は児童相談所に引き取られることとなった。児童相談所の職員が、山辺美月と美月の母の元を訪れ、陽菜の今後について話す場面である。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

とうとう浮田の児童相談所からむかえの人がやってきた。

池内さんと名乗った女性の名刺には、児童福祉士と書かれていた。三十代半ばだろうか、とても元気ではつらつとした女性だった。

「このたびは陽菜ちゃんが大変お世話になって、本当にありがとうございます。ほら、陽菜ちゃんもお礼をいう」

ぼんぼんとはずむような口調でうながされ、陽菜ちゃんは、「ありがとうございます」

と素直に応じた。でも気のせいかな、陽菜ちゃんの表情は、どこかうつろだった。きっと別れがづらいのだろう。美月だってつらい。さっきからまるでラムネの栓みだに、「X」がなにかでふさがれている。

「あ、あの、よろしいですか、ちょっと調べたんですが……」

紅茶を運んできた母親が、あせりぎみにきり出した。指先がふるえて、ソーサーに少しこぼしてしまった。

「一時里親って、いうんですか？ お正月とか夏休みとか、一時的に陽菜ちゃんをあずかることって、可能でしょうか？」

よほど緊張しているのか、めずらしく声が小さい。ところが池内さんからかえってきたのは、

「もちろん可能です」

即答だった。① 母親の顔にパツと朱がさし、陽菜ちゃんと美月ははじかれたように顔をあげた。

「どうか、こちらとしては子どもたちに少しでも家庭での生活を体験させてやりたいと常づね思っていますので、そうしていただけると、ものすごく助かります」

「うわあ、よかったあ。聞いてみるもんねえ」

顔いっぱい笑みを広げた母親は、子どもみたいにパチパチ手をたたいた。

「このまま陽菜ちゃんと別れたきりになるのかと思うと、胸がつぶれそうで、なんとか手はないものかとあちこち聞いて回ったら、そういう制度があると聞いたもんですから」

そんな手があったのか！ 美月は母親に抱きつきたい気分だった。だけど池内さんの手前、ぐつとがまんした。でも、陽菜ちゃんは何？ 陽菜ちゃんはどう思ってる？ もし、いやだっていわれたら……。

おそろおそろ美月はとなりに座っている陽菜ちゃんの表情をうかがった。

陽菜ちゃんは、今日の前で話し合われている内容を理解しているのか、ぼんやりと宙を見つめていた。

「よかったねえ、陽菜ちゃん。また山辺さんちにきていいんだって」

池内さんに顔をのぞきこまれてもまだ信じられないみたいで、

「またピーちゃんと遊べるの？」

と念をおした。

「遊べる、遊べる。お正月にまたおいで」

池内さんより早く母親がこたえた。

「またいっしょに歌おうよ」

美月も続けた。

「うん！」

今度こそ勢いよく陽菜ちゃんはずいいた。

そんな美月たち三人を目を細めてながめていた池内さんは、紅茶をひと口すすると、居住まいを正した。

「今日、こちらにうかがう前に病院で柴田さんとお会いしてきました」

「あ、はい。柴田さん、なんていわれてましたか」

② 母親もあわてて表情を引きしめる。そうだ。自分たちばかり先走りしちゃいけない。ことの発端は柴田のじいちゃんだ。

「とてもすてきな方ですね。お話をうかがっていて、感動しました」

③ 池内さんの声が、しめり気を帯びた。  
「そうです、そうです。ずっと自治会長さんを務めてくださって、団地のためにも、ずいぶんつくしてくれましたよ」

母親もしきりにうなずいている。

「それが、三年前に奥さんを亡くされてから、すっかり気落ちしてしまって……心配してたんですよ」

「『自分には身内とよべる人間は、この世にもうだれもおらん。陽菜は神様が寄こしてくれた最後のプレゼントじゃ思うとります』って、おっしゃってました」

「……そうですか。そんなことをいわれましたか」

柴田のじいちゃんがたおれたとき、スーパの床に転がっていたというプリンやポテトチップス。柴田のじいちゃんの心の大きな部分を陽菜

ちゃんが占めていたのがよくわかるエピソードだ。

「ありがたいことに、今後の陽菜ちゃんの経済的支援を申し出ていただきました」

「まあ！ まるで現代版【Ｙ】ですね」

母親が息をのむのがわかった。よほど心動かされたのだろう、目までうるんでいる。

「陽菜ちゃん」

椅子<sup>いす</sup>の上で 居住<sup>いす</sup>まいを正すと、池内さんは正面から陽菜ちゃんに向き合った。

「お母さんのことは残念だったね。でもね、もしかしたらお母さん、最後の力でもって、柴田さんや山辺さんたちと陽菜ちゃんをつなげてくれたのかもしれないよ」

池内さんの優しい声と言葉は、その場にいただれの胸にも深く浸透していった。最初に 堰<sup>せき</sup>をきったように泣き出したのは母親だった。

「で、でも、陽菜ちゃんのお母さん、最後の日々を陽菜ちゃんと、い、いっしょに過ごせて、し、幸せだったと思うよお。最高の親孝行よ」

泣きながらしきりに陽菜ちゃんの背中をさすった。それから盛大にはなをすすりあげると、陽菜ちゃんを抱きしめ、ひとことひとこと区切るように言った。

「いい？ 陽菜ちゃん。ここはあなたの実家だからね。紫田さんも、わたしたちも、待ってるからね。いつでも、帰っておいで」

——え、お母さん、そこまでいいの？

実家だなんて、いい過ぎじゃない？ もう少して声をあげそうになった。あまりにも前のめりの母親の姿勢がこわかった。

確かに美月も、陽菜ちゃんが妹だったらとは思う。だけど、思うだけだ。知り合ってまだ間がないんだよ。陽菜ちゃんの性格だってよく知らない。あとで裏切るようなことになったら、陽菜ちゃん、よけいに傷つくよ。

それに、それに、もし陽菜ちゃんが悪い子だったら、どうするの？ とときき陽菜ちゃんが見せる、なにも映さないビー玉みたいな瞳の色。そのたどりつけない暗さに、美月はおびえる。

否定的な側面が、いくつもいくつも美月の中で渦<sup>うず</sup>をまいていた。

要はこわかった。母親とのふたり暮らしに変化の生じることが。陽菜ちゃんを受け入れることが。

そんな自分の心の奥底の声にとまどって、美月は陽菜ちゃんへと、そっと視線をはわせた。

陽菜ちゃんは全身を耳にして、母親の言葉を聞いていた。ほっぺたが真っ赤になっている。よく見ると、やせてせんべいみたいなのうすっぺらいひざにおかれたこぶしがふるえていた。

だれにも動きのない数秒間が過ぎた。

やがて 陽菜ちゃんの両手がそろそろとあがり、ためらうように空中をさまよったと思ったら、ゆっくりと母親の太い腰へと回された。

「……陽菜ちゃん」

美月の口から思わず声もれた。陽菜ちゃんは今、自分の殻をやぶろうとしている。きっとすごくこわいはずなのに。美月の何倍も何十倍もこわいはずなのに……。

——この子の勇気にこたえたい。もつといっしょにいたい。

熱い思いが胸の深いところからつきあげてきた。そこだけ熱をもって、やけどしそうだった。

——わたしも一歩をふみ出さなきゃ。

じゃなきゃ、なんにもはじまらない。傷つけるかもしれない。逆に、傷つけられるかもしれない。だけど、それがなんだ。おそれては、なんにもはじまらない。

そんな美月たち三人を静かに見守ってくれていた池内さんが、口を開いた。

「施設で育った子どもたちの一番の試練は、十八歳になったら施設を出なきゃいけないことなんですよ」

十八歳？ 十八歳といえば、美月からすれば、たったの三年後だ。

「高校卒業と同時に、ぼんと社会に放り出されるんです。毎日慣れない仕事を必死にこなし、安いお給料の中からアパート代を支払ったり、食事をつくったり。家庭で知らず知らずのうちに身につけているはずのことも、知らない子も多いですからね。それはそれは大変なんです」

美月はごくりとつばを飲みこんだ。たった三年後の自分にそんなことができるかというのと、とても自信がない。

「なかには、がんばって大学に行く子もいますが、奨学金注2を受けても、学費から生活費までまかなわなきゃいけないですからね。アルバイトに明け暮れて、あまりのしんどさに挫折ざせつしてしまう子も多いです。わたしたちとしても全力でサポートしたいと思うのですが、なかなかそれも難しく……」

今まで美月が想像もしたことなかった世界だ。生きるって、なんて大変なんだろう。

「ですから、柴田さんや山辺さんのようにおっしゃってくださいる方がいると、本当にほっとします。陽菜ちゃん、よかったねえ」

池内さんが、深ぶかとしたまなざしを陽菜ちゃんに向けたとき、

「コーノー、オオゾラオー、トンデー、トンデ、トンデ」

いきなり、ピーコの音痴おんちな歌声が割りこんできた。「トンデ、トンデ、トンデ」と、こわれたレコードみたいにくりかえし、「あれっ」と自分で首をかしている。

「え？ え？ 今の、鳥ですよね？」

大げさにおどろいて立ちあがった池内さんに、美月も母親もついつい大きな声で笑ってしまった。陽菜ちゃんも下を向いてくすりと笑った。

⑤ 全員、泣き笑いだった。

注1 浮田の児童相談所……浮田は地名。十八歳未満の子どもに関する相談や支援を行う機関のことを児童相談所という。

2 奨学金……経済的に苦しい学生に、勉学を助けるために、貸したり与えたりする金。

問一 「X」「Y」に入る言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

X	ア	め	イ	みみ	ウ	のど	エ	はな
Y	ア	シンデレラ	イ	星の王子様	ウ	ヘンゼルとグレーテル	エ	あしながおじさん

問二 ——部①「母親の顔にパッと朱がさし」とありますが、この時の「母親」の心情を三十字程度で説明しなさい。

問三 ——部②「母親もあわてて表情を引きしめる」とありますが、なぜこのようにしたのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号

で答えなさい。

ア 柴田のじいちゃんの体調がどんどん悪くなっていることを思い出したから。  
イ 柴田のじいちゃんが大切な陽菜をほかの家に預けるわけがないと思ったから。  
ウ 柴田のじいちゃんの気持ちを何よりも尊重しなければならぬと思ったから。  
エ 柴田のじいちゃんを池内さんがどう思っているかわからず心配になったから。

問四 ——部③「池内さんの声が、しめり気を帯びた」とありますが、この時の「池内さん」の心情として最も適当なものを次の中から選び、

記号で答えなさい。

ア 柴田のじいちゃんの陽菜を思う気持ちに感動し、泣いてしまいそうになるのを我慢している。  
イ 柴田のじいちゃんの容体が良くないことを知り、喪失感から泣きそうになっている。  
ウ 柴田のじいちゃんに反感を抱いている美月をなだめるため、良いところを言おうと焦っている。  
エ 柴田のじいちゃんを心配する美月を安心させるため、いつもより丁寧<sup>ていねい</sup>に話そうとしている。

問五 〓部A・Bの本文中での意味は何ですか。最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 「居住まいを正す」

ア まっすぐ相手の目を見る

イ 身の回りを整理する

ウ 姿勢よく座りなおす

エ 服装を整える

B 「堰を切ったように」

ア 言葉に詰まったように

イ 急に溢れだしたように

ウ 激しく怒られたように

エ ひどく慌てたように

問六

〓部④とありますが、この時の「陽菜」の行動を、「美月」はどのようにとらえましたか。それを説明した後の文の空欄にあてはまる言葉を答えなさい。

心配してくれる母親に対し、本当に頼っていいのかわからないという（ア）や（イ）があったが、（ウ）を出して（エ）としていた。

問七

〓部⑤「全員、泣き笑いだった」とありますが、この場面の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 生きることの大変さを噛みしめて辛い雰囲気だったが、池内さんの面白さに考えるのが馬鹿馬鹿しい気持ちになった。

イ 陽菜ちゃんがたどるはずの過酷な運命を思うと悲しくなり、せめてピーコのようになり、無理して笑っていた。

ウ 池内さんが、支援を申し出た美月の母親に感動しつつも、ピーコの音痴な歌に驚いた様がありにもおもしろくて笑うしかなかった。

エ 深刻な話題が出たことで緊張した雰囲気だったが、ピーコの音痴な歌と池内さんの少しこっけいな反応で緩和された。

三、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

御堂関白殿おんなんごう御物忌げだつじに、解脱寺げだつじの僧正そうじ観修かんしゅう・陰陽師いんやうし晴明せいめい・医師いし忠明ただあき・武士ぶし義家朝臣よしいえあそん参籠さんろうして侍りけるに、五月一日、

南都なんどより早瓜はやうりを奉りたりけるに、「御物忌おんものいの中に取り入れられん事いがあるべき」とて、(A)にうらなはせられければ、

(物忌の最中に外からの物を受け取られるのはどういうものか)

(吉兆を占わせたところ)

(A)うらなひて、一つの瓜うりに毒気どくけ候ふよしを申して、一つをとり出したり。「加持かぢせられれば、毒気どくけあらはれ侍るべし」と申しければ、

(お祈りをなさんと)

(B)に仰おほせて加持かぢせらるるに、しばし念誦ねんじゆの間に、その瓜うりはたらし動きけり。その時、(C)に毒気どくけ治すべきよし仰せられければ、

(ゆらゆらと動いた)

瓜うりをとりまはしとりまはし見て、二①ところに針はりをたててけり。その後、瓜うりはたらかずなりにけり。(D)に仰せて瓜うりを割わらせられければ、

(瓜は動かなくなりました)

腰刀こしがたなをぬきて割わりたれば、中に小蛇こへびわだかまりてありけり。針はりは蛇へびの左右まなこの眼まなこに立ちたりけり。(D)になにとなく中なかを割ると見えつれども、

(どくろを巻いてうずくまっていた)

蛇へびの頸くびを切りたりけり。名なを得たる人々の振舞ふりまひかくのごとし。ゆゆしかりける事なり。この事①いづれの日記にに見えたりと云ふ事いを知らねども、

(何という記録に見えているということは知らないけれども)

あまねく申し伝へて侍り。

(『古今著聞集』より)

注一 御堂関白殿……藤原道長。平安時代の貴族。

2 物忌……厄除けのため、一定期間特定の行動を慎んで家などにこもること。

3 僧正……最高位の僧侶。

4 陰陽師……占いなどを司る、官職の一つ。

5 参籠……神社や寺院などに、ある期間こもること。

6 南都……奈良。

7 早瓜……ふつうの瓜よりも早く熟する瓜。

8 念佛……仏の名やお経を唱えること。

問一 部ア「とりまはし」・イ「いづれ」を、それぞれ現代仮名遣いに改めなさい。

問二 部a「奉りたりける」・b「毒気あらはれ侍るべし」・c「ゆゆしかりける事」の解釈として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

a 「奉りたりける」

ア 召し上がった  
ウ 取り返した

イ 献上した  
エ 拝んだ

b 「毒気あらはれ侍るべし」

ア 毒が洗われてなくなるでしょう  
ウ 毒がわかるようになるでしょう

イ 毒の気配が消えるでしょう  
エ 毒がより強くなるでしょう

c 「ゆゆしかりける事」

ア 不吉なこと  
ウ 悲しいこと

イ 楽しいこと  
エ すばらしいこと

問三 部①「二ところ」とありますが、どこですか。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問四 部②「あまねく申し伝えて侍り」とありますが、何が伝えられていますか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問五 本文中の(A)～(D)に入る人物として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 御堂関白殿    イ 僧正観修    ウ 陰陽師晴明    エ 医師忠明    オ 武士義家朝臣

〔以下空白〕





解答用紙 (二)

問五	問四	問三	問二	問一	三	問七	問六	問五	問四	問三
A			a	ア			エ	A		
B			b					B		
C			c	イ			ア			
D							イ			
							ウ			

受験番号	
評点	